

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク！



赤い羽根共同募金

2017

11

NOVEMBER



Fukushi
CHIBA

福祉ちば

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.176

特集

ご存知ですか？生活支援コーディネーター

地域の福祉活動

[習志野市] 習志野市社会福祉協議会 谷津支部

エールちば

市民活動団体 地域ケアパートナー ぽっと

福祉人材関連情報

近未来の介護現場

県社協ニュース

県社会福祉センター建替えに向けた報告

行ってみませんか？子ども食堂

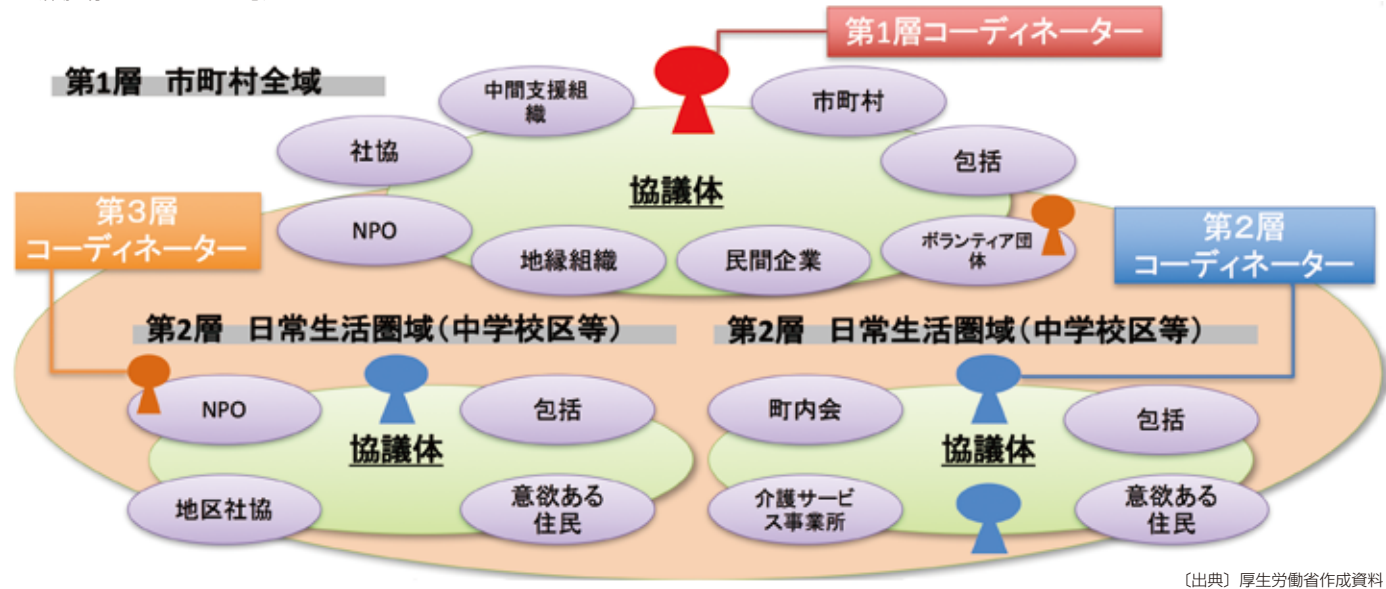
地域の学び舎 プラット

ご存じですか？ 生活支援コーディネーター

平成27年度の介護保険制度の改正により、住民主体の助け合いの仕組みづくりを推進することになり、現在、それぞれの市区町村で「生活支援体制整備事業」に取り組んでいます。この事業は生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置により、生活支援の担い手の養成やサービスの開発などを行い、高齢者の社会参加や生活支援の充実を図るものです。今回は、白井市社会福祉協議会（以下、白井市社協）の生活支援コーディネーターの取り組み事例を紹介するとともに、日本社会事業大学の菱沼幹男准教授に、生活支援体制整備事業の現状や課題について解説していただきました。

コーディネーター・協議体の配置・構成のイメージ

- コーディネーターとして適切な者を選出するには、「特定の団体における特定の役職の者」のような充て職による任用ではなく、例えば、先に協議体を設置し、サービス創出に係る議論を行う中で、コーディネーターにふさわしい者を協議体から選出するような方法で人物像を見極めたうえで選出することが望ましい。
- 協議体は必ずしも当初から全ての構成メンバーを揃える必要はなく、まずは最低限必要なメンバーで協議体を立ち上げ、徐々にメンバーを増やす方法も有効。
- 住民主体の活動を広める観点から、特に第2層の協議体には、地区社協、町内会、地域協議会等地域で活動する地縁組織や意欲ある住民が構成メンバーとして加わることが望ましい。
- 第3層のコーディネーターは、サービス提供主体に置かれるため、その提供主体の活動圏域によっては、第2層の圏域を複数にまたがって活動が行われたり、時には第1層の圏域を超えた活動が行われたりすることも想定される。



●生活支援コーディネーター（地域支えあい推進員）とは
第1層（市町村全域）、第2層（中学校区等の日常生活圏域）において、地域の福祉ニーズと資源状況の見える化や問題提起、地縁組織等の多様な主体への協力呼びかけや関係者のネットワーク化、地域に不足するサービスの創出や担い手の養成等を行う。住民主体で助け合いを行う仕組みづくりの推進役。

●協議体とは
市町村が主体となり、各地域のコーディネーター、地域住民や生活支援・介護予防サービスの提供主体等がメンバーとなって、地域における課題、ニーズの把握や資源の開発を行う。

急激に高齢化が進む中、地区の住民が集う会議を開催

白井市の人口は現在、約6万3,600人。昭和54年以降、千葉ニュータウン事業によって30歳代で移り住んだ人が多く、県内でも随一の若い市として発展してきましたが、40年たった今、急激に高齢化が進んでいます。

そこで平成24年度に、高齢化率が特に高い清水口小学校区と南山小学校区をモデル地区として、地域の企業や住民などが集まって高齢者の普段の見守りについて話し合う地区連携会議をスタートしました。主催は地域包括支援センターでしたが、白井市社協も運営スタッフとして当初から関わっていました。

翌年度は、話し合われた意見を形にするために中心メンバーとして手をあげた

住民とともに会議を毎月開催し、広域サロン「梨の実ひろば」や、民間業者の協力を得て高齢者を見守る「白井市高齢者見守りネットワーク」を発足させるなど、成果につながりました。

平成26年度には対象地区を市域全体に拡大。日常生活圏域（A圏域＝5小学校区、B圏域＝4小学校区）にそれぞれ「地域ぐるみネットワーク ふれあい会議」（以下、ふれあい会議）を設置し、月1回の会議を開催し、その中で小学校区ごとに分かれてグループワークを行い地域の課題について話し合いました。

まずは第2層の協議体で高齢者支援の議論を展開

このような取り組みを推進している中、生活支援体制整備事業が始まり、平成28年4月、白井市社協が市の委託を受

けて、生活支援コーディネーターの配置と協議体を運営することになりました。ふれあい会議の内容が、協議体の目的と類似していることからふれあい会議を第2層協議体と位置づけ、生活支援コーディネーターは、清水口地区担当職員としてふれあい会議に関わってきた仲山君子さんが務めることになりました。



第2層協議体グループ発表



左から渡邊光子さん、仲山君子さん、秋本紀子さん
白井市社会福祉協議会 TEL 047-492-5713

第2層のそれぞれの圏域で月1回開催される「ふれあい会議」には、白井市職員や地域包括支援センター、自治会、民生委員、地区社会福祉協議会、ボランティア団体などだけでなく、一般住民にも広く呼びかけ、多様な人が集まります。そして小学校区ごとに「高齢者が安心して暮らすために、どんな課題があるか。課題解決のためにどんな社会資源が必要か。自分たちはどんな資源開発ができるか」ということを話し合い、発表をします。

会議の様子や話し合いの結果はレポートとして参加者に配布するとともに、市のホームページで、誰もが閲覧できるようにしています。

住民からの要請があれば週末や夜間でも話し合う姿勢

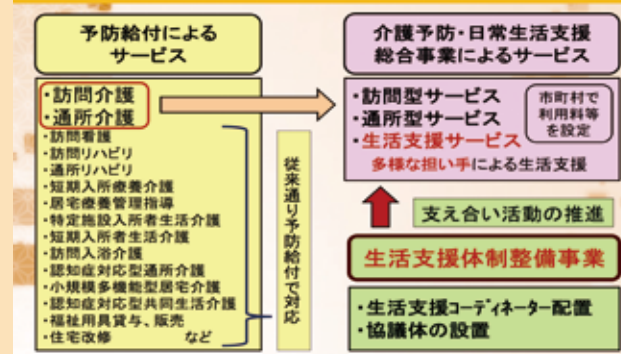
平日の昼間に開催されるふれあい会議は時間的に参加が難しい人もいます。そこで仲山さんは住民グループから「こんな活動をしたいので、相談したい」という要請があれば、できる限り出向いていってお話を伺っています。

一人暮らしの友達同士でランチをしているというグループに伺った際に、「もっとみんなで集まって食事ができたら引きこもりや孤食が減るのではないかな」との意見から、「ぼっち食堂」（弁当購入・持参可）がスタートしました。月に2回西白井複合センターに集まり、おしゃべりとランチを楽しんでいます。今では食事以外にもお花見をしたり、バス旅行に行ったりと活動が広がり、名称も「ぼっちクラブ」と変更しました。



買い物支援（協力：社会福祉法人神聖会 特別養護老人ホーム菊華園）

生活支援体制整備事業



日本社会事業大学
社会福祉学部福祉計画学科
准教授 菱沼 幹男

介護保険制度の改正によって、要支援1と2の方々への訪問介護と通所介護のサービスは、従来の介護保険事業者だけでなく、多様な担い手によって提供できるようになりました。生活支援体制整備事業は、この多様な担い手による生活支援を広げていくための事業です。具体的には、各市区町村に「生活支援コーディネーター」を配置して、住民による支え合い活動を支援し、関係者が必要な取り組みを話し合う場として「協議体」を設置することであり、平成29年度末までに全国の自治体で取り組むことになっています。

この事業に対する市民の不安として「要支援者の生活支援は、これから住民がしなければならないの？」という声があります。この事業が始まって、従来の介護保険事業者によるサービス提供がなくなるわけではありません。地域の支え合いの大切さは、住民が公的支援の補完をするというよりも、互いに無理のない範囲で支え合いに関わることによって、社会的孤立のない地域づくりをしていくきっかけとして、この事業を生かしていけるとよいでしょう。



あいのねサロン



おやしサロン



ふじ元気ひろば

話し合いを重ねてきた住民による見守り活動は、今年8月から「お元気見守り事業」として市の事業となりました。介護保険や市のサービスを利用していない一人暮らしの65歳以上の高齢者等を、「見守りパートナー（市が養成した住民ボランティア）」が定期的に訪問したり、電話やメールで安否確認をしています。

また、地域限定ではありますが、買い物に不便という高齢者の声には、市内の社会福祉法人神聖会のマイクロバスを利用したボランティアの付き添いによる自宅までの送迎及び、玄関まで荷物を届ける買い物支援サービス（月2回、1回100円）を実施しています。

「お酒が飲めるサロンがあったら男性も参加しやすいかも」というアイデアが出た時は、仲山さんと住民グループが場所探しに奔走し、飲食店のスペースを借り、今では「おやしサロン」として3か所で開催しています。

その他にも、子どもたちと高齢者が野菜づくりや食事をして交流する「ふじ元気ひろば」や、住民が歩いて行ける範囲の自治会館等を巡回する「あいのねサロン」などを立ち上げました。

仲山さんや、今年6月から加わった渡邊光子さん（第2層生活支援コーディネーター）は、協議体参加者に対して白井市の現状等の問題は提起しても、取り組みを押し付けるようなことはしません。

会議の参加者や住民グループ自らが問題意識を持ち、住み続けるために必要な活動を考えて行動することで、生活支援コーディネーターが想像もしなかった地域ニーズに合ったオリジナリティーあふれる活動が生まれています。

今年9月26日には、第1層協議体の第1回目の会議が開催されました。協議体の委員は自治会連合会、民生・児童委員協議会、社会福祉法人、ボランティア団体の代表など9名です。地域福祉推進グループ長の秋本紀子さん（第1層生活支援コーディネーター）は、「第2層の地域中心の取り組みを参考に、第1層ではどのような取り組みが市内全域に広げられるか、また、拡大の方法などを広い視点で考えたい」と話します。

第1層の協議体も動き出し、白井市では、高齢者になっても誰もが暮らしやすい地域社会の実現に向かって、住民主体の支えあい活動が活発に展開されてきています。



第1層協議体の会議



赤ちゃんから高齢者まで きめの細かい地域福祉活動を展開

奏の杜集会所で開かれた子育てサロン「ほっぺ」

県内の市の中で2番目に面積の小さな習志野市ですが、交通アクセスが良く、17万人以上の方が暮らしています。習志野市社会福祉協議会（以下、習志野市社協）は市内に16の支部を設置し、今回ご紹介する谷津支部は最も面積が広く、人口も多く、若い世代が多い活気にあふれたまちです。幅広い世代を対象に、きめ細かく、活発な地域福祉活動を展開されていました。

担い手自身も楽しみながら 子育てサロンを月4回

谷津支部は「ふれあいと支えあいのまちづくり」を目指し、7つの部会に分かれ、きめ細かな福祉活動を展開しています。中でも「子育て支援事業部」は活発で、子育てサロン「ほっぺ」を週1回、地域内4か所の会場を順番に回って開催しています。

今回伺ったのは「奏の杜（かなでのもり）集会所」。奏の杜とはJR津田沼駅の南側に、大型商業施設や高層マンションなどを建設して平成25年に誕生した新しいまちの名称です。子育て世代が数多く移り住んできたことから、子育てサロ



習志野市社協 谷津支部「ほっぺ」のみなさん

ンを立ち上げました。

当日は46組の親子が参加し、会場はいっぱいになりました。毎回、100名近くが集うそうです。最初の1時間は自由におもちゃで遊んだり、お母さん同士がおしゃべりして過ごし、後半の30分で絵本の読み聞かせや手遊び、誕生月の子どものお祝いなどを行います。

「県外から引っ越してきたので、ママ友をつくりたくて、参加しています」というお母さんが何人もいて、奏の杜地区の子育て支援のニーズの高さが伺えました。

当日のスタッフは9名。支部役員中心（民生委員や主任児童委員など）ですが、習志野市社協のボランティア募集を見て応募された方もいます。新人スタッフの一人は、「ベテランぞろいのスタッフの中に入って行くのは不安があったのですが、あたたかい雰囲気だったので、すぐになじむことができました」と話していました。

子育てサロン部長の間井祥子さんが「自分たちが楽しく活動できることが大切」と述べているように、スタッフ同



士が仲良く、笑顔で活動している様子が印象的でした。

「参加者の人数が多く、会場がいっぱいになることが多いので、課題は災害時の対応です。避難の方法などをしっかり決めておきたい」と間井部長。人数制限や予約制にしているサロンもありますが、「それでは親子のみなさんに申し訳ない」と、これからも参加希望者をすべて受け入れる体制を続けていくそうです。

子どもや障がい者も支援する 住民参加型家事援助等サービス

谷津支部では、「住民参加型家事援助等サービス」（いそしぎサービス）が軌



住民参加型家事援助等サービス（相談電話）

道に乗り、年々利用件数が増えています。昨年度は延べ1,140件のサービスを提供しました。

きっかけは平成16年に支部の事務所を谷津公民館に開所したこと。それまでも助け合い活動は実施されていましたが、拠点ができからは仕組みを整備し、役割分担を明確にして実施できるようになりました。高齢者世帯の掃除や買い物などちょっとした家事のお手伝いのほか、通院の付き添いや話し相手にも対応しています。

料金は1時間400円。現在、担い手となる協力会員は約30名です。ある協力会員は「高齢者のお宅に伺って掃除をしています。回数を重ねていくうちに楽しい会話が生まれます。終わった時にありがとうございますと言われると、次回も頑張ろうと思います」とやりがいについて述べています。

高齢者の支援だけ



三世代ふれあい交流会

さらに地域の小中学生と高齢者、地域のサークル部員が年1回、一堂に会して「三世代ふれあい交流会」を実施。食事会や手芸、ビンゴゲームなどで親睦を深めます。高齢者をサポートするボランティアを中学生の

でなく、最近では子どもの保育園の送迎や、障がい者の送迎なども請け負うようになりました。家事援助等サービス部長の杉本潤子さんは、「ほかの支部と比べると、私たちの運営方法は非常にアバウト。協力会員がやりたいと言えば受けるし、難しいと言えばお断りします。無理をしないで担い手が楽しく活動できることが第一です」と、子育てサロンの間井部長と同様に楽しさを強調されました。

小中学生が参加する 世代間交流事業

そのほか、世代間交流にも力を入れています。「学校交流事業部」では年に2回、向山小学校の6年生と地域の高齢者の交流会を実施。おしゃべりしたり歌を歌ったりゲームを行っています。「小学生のみなさんが相談しあって遊びを決めるなど、主体的に動いてくれます。高齢者だけでなく、小学生にとっても楽しいイベントになっています」と、学校交流部長の牛嶋睦さん。



学校交流会（向山小学校）

みなさんが務めているそうです。

そのほか「ふれあいいきいきサロン」の開催、ひとり暮らしの高齢者への食事サービス、広報紙「いそしぎ」の発行、地域住民を対象とした健康セミナーや防犯講座、料理教室なども実施しています。

支部長の中村嘉秀さんは、谷津支部の活動について「7つの部会がそれぞれ切磋琢磨しながら、一生懸命に活動してくれていることに日頃から感謝しています。だからこそ、乳児から高齢者まで幅広い層に対し、きめこまやかな支援ができてきているのだと思います」と締めくくっていただきました。



ひとり暮らし老人食事サービス

習志野市社会福祉協議会 TEL 047-452-4161

住民主体のサロン活動を 市内全域で展開！



習志野市社会福祉協議会マスコット「ふくっぴー」

習志野市社協では16の支部すべてで、ふれあい・いきいきサロンを実施しています。開催頻度や内容などは支部ごとに様々で毎月1回の支部もあれば、毎週実施している支部もあります。

「市社協としては、それぞれの支部が地域の特性を活かして、自由な発想で企画した内容を尊重し、活動をバックアップするという姿勢です」と、地域福祉課地域支援係の太田めぐみさん。

各支部の活動内容はバラエティに富んでおり、英会話、卓球、パークゴルフなどに取り組んでいる支部もあります。ある支部では、特にメニューを決めず、参加者が小グループに分かれて、手芸、将棋、

麻雀など好きなことをして過ごします。

一方、子育てサロンは約半数の支部で実施しています。市社協が直営する子育てサロン「ふくっぴーファミリーサロン」は週3回開催。参加したお母さんたちが、サロンを卒業した後も地域活動に参加できるように支援しています。

市社協では、ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンなど、それぞれの事業ごとに、担当者が集まる会議を年1回、開いています。そこでは活動の状況や課題について情報交換を行っています。

ふれあい・いきいきサロンの課題として「高齢者の中には開催場所まで歩いていくことが難しい方がいる」「開催場所



習志野市社協地域福祉課のみなさん

を増やしたい」という課題が多く挙がっていました。そこで市社協では、サロン数を増やすための「地域サロンモデル事業」を展開。支部以外の地域団体が運営するサロンについて、一定の条件を満たすことができれば、助成金を出すことになりました。

習志野市社協では、誰もが孤立することなく、地域の人と交流できる場づくりを支援しています。

※習志野市人口：172,591人 65歳以上人口：39,414人 高齢化率：22.836%（平成29年9月末日現在）

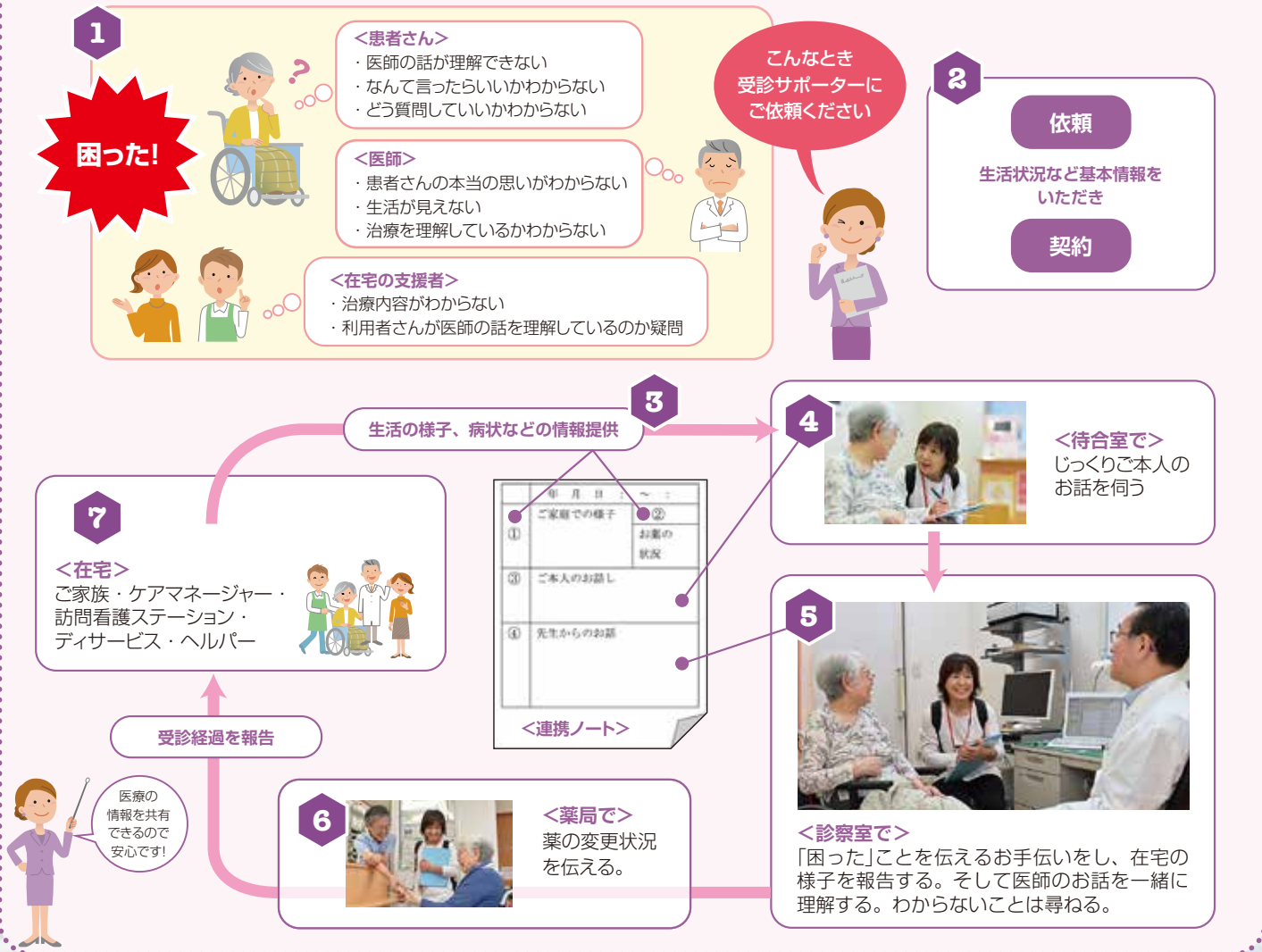
誰もが安心して受診できるために！ 患者と医療と在宅介護をつなぐ

「受診サポーター」

市民活動団体 地域ケアパートナー ほっと

〈活動エリア〉 千葉市緑区土気
 美浜区稲毛海岸

受診サポートのしくみ



「ほっと」の皆さん (中央が代表の藤井直枝さん)



スタッフのステップアップ研修

利用者の感想

間に入ってくださることで
 気持ちを率直に伝えられる

1年ほど前から利用していますが、受診サポーターは心強い味方です。お医者さんとの間に入ってくださることで、私の率直な気持ちを伝えることができるようになりました。仕事をしている娘と2人暮らしで、日中は一人です。帰宅した後も受診サポーターが車いすからベッドに移乗してくださるので助かっています。

徳和子さん



フットケア

「受診サポーター」とは病院の受診に付き添って、患者と医療、在宅介護の架け橋となる「つなぎ役」です。患者の不安や疑問を医師にきちんと伝え、医師の説明を患者や家族、在宅介護の従事者に伝える支援をしています。千葉市内の市民活動団体「地域ケアパートナー ほっと」が仕組みをつくり、多職種と連携しながら啓発活動を行っています。

「連携ノート」を使って 患者、医療、在宅介護をつなぐ

現在の介護保険制度では、ヘルパーが病院の診察室に付き添って介助することは、制度上認められていません。しかし高齢の患者の中には、一人では医師に症状や要望を伝えることが難しかったり、医師の説明が理解できない方が数多くいます。受診サポーターは通院のサポートだけでなく、診察室に同行して、患者が医師に対して必要なことをきちんと伝えられる

ように、医師の説明が正確に患者に伝わるように支援します。そして、在宅介護に関わっている家族、ケアマネジャー、訪問看護、訪問介護などの事業所とも連携して、情報を共有しています。そのためのツールが「連携ノート」。在宅介護に関わっている人が在宅での様子を記入し、受診サポーターは、診察の前に待合室で患者の思いや疑問を聴いて書き留めます。受診サポーターは診察の際、連携ノートの記述を見て、「37度の微熱が3日間続きました」といった在宅での様子を医師

に伝えることができます。診察後は薬局にも同行して、薬剤師と患者をつなぎます。受診終了後、医師の説明を連携ノートに記入することで、在宅介護に関わっている人が、治療方針や薬の変更などを確認することができます。このように、受診サポーターは「患者」と「医療」と「在宅介護」をつなぐ架け橋として活動しています。

**制度の隙間を埋める
 サービスを提供したい**

受診サポーターのサービスを提供しているのは千葉市の市民活動団体「地域ケ

アパートナー ほっと」(以下、「ほっと」)です。代表の藤井直枝さんは、訪問看護師としての経験や介護経験・患者経験から、「公的サービスだけでは在宅介護を支えるのは難しい。制度の隙間を埋める支援をしたい」と、平成21年に「ほっと」を立ち上げました。利用者の自宅を訪問してフットケア、ハンドケアを施術しながら話し相手になる訪問傾聴活動や、外出の支援活動とともに、当初から受診の同行支援を行っていました。現在利用者は50～90代の40名ほど。認知症、がん患者など病気は様々で、自宅から付き添う方もいれば病院で待ち合わせをする方もいます。利用者1人につき月1回程度のサポートを行っています。利用料金は1時間1,500円で、追加料金は30分ごとに500円。受診サポーターには交通費と活動時間に沿った活動費(700円～)が支払われます。ケアマネジャーを通しての依頼が多いそうです。25年には受診の同行支援の関係者にアンケート調査を実施したところ、ほとんどの人が「とても助かっている」という回答を得ることができました。利用者からは「医師に本音を言えるようになった」「医師の話を、噛み砕いて

説明してくれるので助かっている」といった声、医師からは「在宅での様子を整理して伝えてくれるので、助かっている」「診療がスムーズになった」という声が寄せられました。家族からは「通院のたびに仕事を休まなくても済むようになった」と喜ばれ、ケアマネジャーからは「医療と情報共有ができるようになって安心です」という感想が寄せられました。「ほっと」のみなさんは、大きな手応えを感じたと言います。

**千葉市との協働事業で
 養成講座を開催**

平成26年から2年間、千葉市との協働事業として「受診サポーターの仕組みづくり」に取り組みました。まず高齢の患者や医師、在宅介護の従事者を対象にニーズ調査を行い、受診サポーターの必要性を再確認し、それぞれの立場の人がどんなことで困っているかを挙げてもらいました。また担い手養成のため、「受診サポーター養成講座」を2回、開催。26年は17名、27年は19名へ受診サポーター養成講座修了証を発行しました。幅広い知識や技術が求められるため、傾聴やコミュニケーションの技術、介護保険の制度や医療についての知識を専門家から学

び、病院での実習を含めた内容になっています。第2回目の講座は8日間、延べ44時間のカリキュラムでした。現在、養成講座の修了者も含めて、受診サポーターとして活動しているスタッフは12名。看護や介護の有資格者もいれば、長年、在宅介護を担ってきたスタッフもいます。「大切なことは、受診サポーターが患者さんに代わって医師に話すのではなく、患者さんが話しやすいように支援すること。そのためには、技術や経験が必要です」と藤井さん。フォローアップ研修を開いたり、月1回のミーティングの中でお互いの課題を話し合ったりしてレベルアップを図っています。藤井さんに今後の抱負について伺いました。「これからサポートの必要な患者さんがもっと増えていくことでしょう。県内には通院介助を行っているボランティア団体が多数あるので、そのボランティアさんが受診サポーターとして活動していけるよう、ほっとが養成のお手伝いをし、地域ごとに仕組みをつくっていくことが出来たらいいと考えています」誰もが安心して医療を受けられるために、受診サポーターのしくみが県全域に広がっていくことが期待されます。

近未来の介護現場

社会福祉法人 聖進會 さわやか苑

●目指すは次世代型の介護施設

船橋市米ヶ崎町にある「さわやか苑」は、特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイなど、幅広い介護ニーズに対応した施設です。

平成27年4月、次世代型老人ホームの東館がオープン。これを機に職員が一丸となり、「将来、自分たちが入りたい老人ホーム」を合言葉に、様々な先進的な取り組みを行っています。

「介護人材が減り続けている現在、解決方法は大きく分けて3つ。外国人労働者の雇用、職員の定年延長、そして、機械化の推進です」と語る、社会福祉法人聖進會の理事で、さわやか苑の事務長も務める永井周治さん。

「さわやか苑」は熟慮の結果、限られた人数で効率的な介護を行うには、機械化を推進すべきとの結論に至り、現在も新たなチャレンジを続けています。

●介護現場にロボットを導入！

「さわやか苑」の先進的な取り組み、その筆頭と呼べるのが、介護ロボットの導入です。

平成27年2月、介護支援ロボットのHAL介護支援用（腰タイプ）（以下、HAL）を2台導入。現在も介護士が現場で使用しています。

HALは人が体を動かす時に、脳から筋肉へ送られる信号（生体電位信号）を読み取り、その動きを機械的にアシストす



介護支援ロボットのHAL介護支援用（腰タイプ）

る仕組みで、これにより介助者の腰部への負荷が、大幅に軽減されます。なお、実際の使用感は、担当者のレポートをご覧ください。

そして導入から約半年後、HALを積極的に活用していると知った開発会社から依頼があり、HAL10台、介護士20名、期間約3カ月という、大掛かりな実証実験に協力。その後、防水機能が追加されるなど、HALの性能向上にも大いに貢献しています。

●効率的な排泄介助のために

「さわやか苑」の全面的なサポートにより、製品化へと漕ぎ着けたのが、排泄センサー「Helppad（ヘルパッド）」です。

「Helppad」の通知方法は、利用者の排泄を「におい」で検知し、その情報をタブレット端末だけではなく、製品時はリモコンや受信機にも通知されるという、画期的な介護機器です。

現在、多くの介護施設では、定められた時間に排泄介助が行われます。しかし「Helppad」を使用すれば、必要な利用者に、必要な時のみケアが可能のため、介護者と利用者双方に大きなメリットがあります。

「この施設（さわやか苑）の協力が無ければ、製品化されていなかったかも知れません」と、「Helppad」を開発した（株）abaの代表取締役、宇井吉美さん。

「Helppad」の開発には、なるべく多くの実践データが必要であり、それを集めるには利用者の協力が不可欠です。しかし、他の介護施設でそれを求めるのは、とても難しかったとのこと。しかし、「さわやか苑」は永井さんを始め職員が全面的に協力し、約20～30名



「さわやか苑」事務長 永井 周治さん

もの利用者から同意を得られたことで開発が進み、大手ベッドメーカーと提携して製品化されました。現在も、より性能を向上させるべく、「さわやか苑」での開発が続いています。

●未来の介護現場を創るために

「私達は、介護ロボットや介護機器の開発協力は、社会福祉法人として新しいカタチの社会貢献であると思っています。これまで以上に、社会福祉法人として社会のニーズに対して積極的に応えていく姿勢が重要であり、地域に必要とされる団体でなくてはなりません」と、永井さん。

その中には、次世代の介護や、今後、介護職に就く方々のために、良いモノを残すための行動が含まれている。したがって、新製品の開発に協力することは、大きな意味があるのだと言います。

さらに、「この仕事は、介護職員がワクワクすることも大事なのです。なぜなら、夢の無い場所には人は残りませんから」と。

現在はもちろん、次世代を大切に「さわやか苑」の取り組み。その先に、近未来の介護現場が見えるような気がします。



（株）abaの代表取締役 宇井 吉美さん



排泄センサー「Helppad（ヘルパッド）」の使用例

（report）介護の現場から… 私がHAL介護支援用（腰タイプ）を使っています！



介護士 新津 菜摘さん

最初にHALを現場で使った時は、本当に未知の機械なので、上手く使えるか、業務に支障をきたさないかと、少し不安がありました。HALの装着は1人で可能です。背中に3カ所、電極を貼り付ける必要がありますが、慣れてしまえば簡単です。機械の電源を入れてから起動するまでは数秒になり、装着から起動までの時間は4～5分になります。初めて装着した時は、後ろから体を引っぱられる感覚があり、多少違和感を感じましたね。実際に使ってみると、ベッドから車イスへの移乗介助など、腰に負担が掛かる作業が、かなり楽に行えるようになりました。また、HALそのものがコルセットのような役割をするため、姿勢も良くなった感じがします。現在のHALは改良されて防水仕様になったので、入浴介助を行うことが多い施設にもお勧めしたいですね。



福祉のお仕事

FUKUSHI-JOB SEARCH

千葉県福祉人材センター
TEL.043-222-1294

福祉のお仕事

検索

http://www.nw.fukushi-work.jp/



新千葉県社会福祉センター整備の方向性が示されました

現千葉県社会福祉センターは、昭和49年に建設されて以来40年以上が経過し、老朽化が著しく、耐震強度を満たしていない、バリアフリー化が進んでいない等、利用者の利便性の低下が著しい状況です。さらに、自然災害が頻発する中、地域の災害ボランティア活動の拠点としての役割も求められています。こうした中、国会、入館団体をはじめとする福祉関係団体、市町村社会福祉協議会で千葉県社会福祉センター建設の早期実現について要望を行ったところです。

このことについて9月11日開催の千葉県社会福祉審議会において、千葉県が主体となって千葉県社会福祉センター整備事業に係る整備計画が示され、建設予定地、施設整備の基本方針、事業費及び整備スケジュール等が明らかになりました。

建設予定地 千葉市中央区千葉港4-5

施設整備の基本方針

役割・機能の概要（拡充・新規）

① 福祉関係団体の活動の拠点

- 福祉関係団体の入館
- ・千葉県社会福祉協議会及び社会福祉関係団体の事務所機能

② 県民の地域福祉活動促進の拠点（新規）

- 県民への情報発信・相談対応
- ・福祉情報センターの設置、福祉機器の展示
- 県民の福祉活動への参加の支援
- ・会議室・研修室の利用開放、各種研修会やセミナーの開催

③ 福祉人材養成・確保の拠点（新規）

- 福祉人材センターの移転
- 保育士・保育所支援センターの移転
- ・相談・研修の一体的な実施による就職・再就職支援、入館団体との連携強化

④ 災害の福祉的支援の拠点（新規）

- 災害福祉広域支援ネットワークの構築
- ・災害時の福祉分野の広域的な支援ネットワークの構築・県本部設置、災害福祉支援チームの養成
- 災害用備蓄機能、帰宅困難者一時滞在施設機能
- ・災害時の帰宅困難者を受け入れるための災害物品を備蓄し、一時滞在施設を開設

配置・平面計画

施設規模…延床面積4,500～5,400㎡（地上5階建てを想定）

事業スケジュール

- ・平成29～30年度 基本設計
- ・平成31年度 実施設計
- ・平成32～34年度 建設工事（平成34年度供用開始）

※詳細は千葉県ホームページ「平成29年度千葉県社会福祉審議会」をご参照ください。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/shingikai/shakaihukushi/290911.html>

（平成29年度）
社会福祉施設経営相談
専門家相談カレンダー

秘密厳守
相談無料

一般相談・予約は ☎043-245-4450 社会福祉施設経営相談室まで

月	会計等（税理士・公認会計士）	労務等（社会保険労務士）	法律（弁護士）
11月	21日（火）	15日（水）	22日（水）
12月	4日（月）・18日（月）	6日（水）・20日（水）	13日（水）・27日（水）
30年1月	15日（月）	4日（木）・17日（水）	10日（水）・24日（水）

赤い羽根共同募金



12月1日より
歳末たすけあい募金が始まります。

歳末たすけあい募金は、共同募金の活動のひとつで、毎年12月に行われます。種類は下記の2種類があります。

市町村歳末たすけあい募金
(地域歳末たすけあい募金)

新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、住民の参加や理解を得てさまざまな福祉活動を重点的に展開するものです。

お寄せいただいたご寄付は、**全額が「集められた地域」で使われる**ことが特徴です。



高齢者や障がい者のための移動サービス事業協力者への運転者講習会【東金市】



中学校の福祉授業にて点訳(原稿を点字にすること)体験【習志野市】

NHK歳末たすけあい募金

毎年NHKと共同募金会の共催で行われる、助け合い運動です。お寄せいただいたご寄付は、県内の福祉施設での介護用品や就労支援・作業用品、防災等の備品の整備に役立てられます。

昨年は千葉県内で134の福祉施設への助成に役立てられました。



就労移行支援施設でシーラー(袋を密閉する機械)の購入

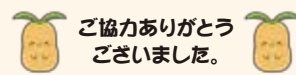


平成29年度 NHK歳末たすけあい募金ポスター

平成28年度 歳末たすけあい募金総額 2億4,749万6,081円

市町村歳末たすけあい募金 2億2,283万5,633円

NHK歳末たすけあい募金 2,466万448円



平成29年度 歳末たすけあい募金目標額 2億7,000万円

平成29年度
市町村歳末たすけあい募金

平成29年12月1日~31日

各市町村社会福祉協議会等の窓口にて受付しています。

市町村歳末たすけあい募金目標額 2億4,000万円

平成29年度 第67回
NHK歳末たすけあい募金

平成29年12月1日~25日

全国の金融機関にて手数料無料で受付けています。

NHK歳末たすけあい募金目標額 3,000万円

NHK 歳末たすけあい 助成のご案内	助成内容	助成率	助成上限額	申請期間	助成時期
	社会福祉法人、NPO法人等の施設利用者に役立つ備品	NPO法人・任意団体	算定額の100%	受付中~11月30日	第一次 平成30年1月
		その他の団体	算定額の75%		20万円

※助成申請書や要綱は、当会ホームページにてダウンロードいただけます。http://www.akaihane-chiba.jp/ 詳しくは下記までお問い合わせください。

皆さまに支えられて、共同募金は今年70周年



共同募金運動は、第二次世界大戦後、昭和22(1947)年に「国民たすけあい運動」として始まりました。戦後復興として第一回目の共同募金運動では、およそ6億円の浄財が寄せられ、現在では、時代の移り変わりに合わせてさまざまな地域の課題解決のための「じよんの町を良くするいきみ」として取り組んでいます。長年、運動に携わってきたボランティアの皆さま、寄付者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 千葉県共同募金会

〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-3 県社会福祉センター2F
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338
http://www.akaihane-chiba.jp/



地域の情報ひろば

きさらづ福祉まつり2017

- 日時: 平成29年11月25日(土) 9:40~15:00
- 会場: 木更津市民総合福祉会館(木更津市潮見2-9)
- 対象・定員: どなたでも参加できます
- 主催: 福祉まつり実行委員会
- 主 催: ○オープニングセレモニー ためぎばやし保存会の演技など
○式典 社会福祉功労者表彰・講演
演題「喜ばれることに喜びを感じて」
講師 小湊道徳株式会社 観光部 木更津営業所長 鳥飼 一男氏
○イベント 芸能発表、出店ブース、体験コーナー、展示コーナー、スタンプラリー、協賛企業紹介コーナーなど
- 参加費: 不要
- 参加方法: 直接ご来場ください(申し込み不要)
- 問合せ先: 木更津市社会福祉協議会 担当: 平野 TEL:0438-25-2089

東日本大震災被災者支援・東北復興応援イベント「縁joy・東北」2017

- 日時: 平成29年12月2日(土) 10:00~15:00
- 会場: イオンモール幕張新都心 グランドスクエア(千葉市美浜区豊砂1-1)
- 対象・定員: どなたでも
- 主催: 「縁joy・東北」2017 実行委員会
- 主 催: 東北に元気を届けよう!
○販売コーナー 東北被災3県の物産販売・県内避難者による手芸品他
○親子であそぼ・体験コーナー 起き上がり小法師・プラ板キーホルダー作り他
○ステージ企画 ゆるきゃらとあそぼう(チーパくん・キピタン・ガツキーが遊びにくるよ)、郷土芸能(浪江町獅子舞神楽・双葉町標葉せんだん太鼓・船橋市バカ面踊り・旭市飯岡お囃子会)他
- 参加費: 無料
- 参加方法: 申込み不要。直接ご来場ください。
- 問合せ先: 特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ TEL:043-303-1688 担当: 風間・銅嶋

第9回東金チャレンジドフェスタ

- 日時: 平成29年12月3日(日) 10:00~14:00
- 会場: 東金市保健福祉センター(ふれあいセンター)(東金市田間3-9-1)
- 対象・定員: どなたでも参加できます
- 主催: 第9回東金チャレンジドフェスタ実行委員会
- 主 催: 障害者週間(12/3~9)啓発と地域交流を目的としたイベントです。各種模擬店や団体の活動PR、体験や相談コーナー、にぎやかなステージ等。先着でおもちゃスタンプラリー景品プレゼント。チーパくん、とっちゃん、やっさくんもくるよ!
- 参加費: 無料
- 参加方法: 申込み不要。直接ご来場ください。
- 問合せ先: 東金市社会福祉協議会 TEL:0475-52-5198 FAX:0475-52-8227

ホット!ほっと!ほんわかと ~平成29年度ユニークダンスのついで~

- 日時: 平成29年12月10日(日) 13:30~15:30
- 会場: 八街市中央公民館(八街市八街796-1)
- 対象・定員: だれでも どなたでも 大歓迎!
- 主催: 八街市ボランティア連絡協議会、八街市社会福祉協議会
- 主 催: サンタさんも来るかな? 玉入れ、ボール運びにフラフープ... チームに分かれてのゲームやレクリエーションで、心もからだもホット!ほっと!ほんわかと。うたって踊ってみんなが笑顔。落花生音頭もだ~いすき。
- 参加費: 無料
- 参加方法: 参加の際は事前に下記連絡先にご連絡下さい。
- 問合せ先: 八街市社会福祉協議会 担当: 尾形・小川 TEL:043-443-0748

第9回障害者作品展「ふれあいギャラリー」

- 日時: 平成29年12月22日(金) 10:45~18:00
23日(土) 10:00~18:00
24日(日) 10:00~15:00
- 会場: 佐倉市立美術館3階市民ギャラリー(佐倉市新町210)
- 対象・定員: どなたでも
- 主催: 佐倉市、佐倉市社会福祉協議会
- 主 催: 佐倉市在住、在学、在勤、または市内で活動されている障がいのある方が創作した文化・芸術品の作品展
- 参加費: 無料
- 参加方法: 申込み不要。
- 問合せ先: 佐倉市社会福祉協議会 担当: 細谷 TEL:043-484-6198

広がれ、子ども応援の輪! ~つくろう!ちば子ども応援ネットワーク~

- 日時: 平成30年1月27日(土) 13:15~16:30
- 会場: 船橋市中央公民館 6階講堂(船橋市本町2-2-5)
- 対象・定員: 一般県民向け
- 主催: NPO法人ちば子どもおうえんだん、千葉県社会福祉士会、千葉県社会福祉協議会
- 主 催: 講演 演題「見えない貧困~いま、なぜ子どもの貧困なの?~」
講師 板垣淑子氏
NHKスペシャル「見えない貧困」チーフ・プロデューサー
○未来につながるリレートーク
○ロビートーク(ポスターセッション)
- 参加費: 無料
- 参加方法: 所定の参加申込書に必要事項を記入し、平成30年1月19日(金)までに、FAX等で下記までお申し込みください。
- 問合せ先: 「広がれ、子ども応援の輪!」実行委員会事務局 千葉県社会福祉協議会地域福祉推進班内 担当: 山口・川上 TEL:043-245-1102 FAX:043-244-5201

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成29年度
全国200万人
加入!!

保険金額		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,320万円	1,800万円	
	後遺障害保険金		1,320万円(限度額)	1,800万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 入院中の手術	保険金		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
賠償責任補償	特定感染症の補償		上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
	葬祭費用保険金(特定感染症)		300万円(限度額)		
賠償責任	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)		プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	タイプ		350円	510円
	天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約事項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



保険金をお支払いする主な例

- ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)
- 送迎サービス補償 (傷害保険)
- 福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



運営主体 NPO法人ダイバーシティ工房
連絡先 Tel 047-718-2330
フェイスブック 地域の学び舎「プラット」 検索

- 開催日時：第1水曜日17：30～20：30、
第4金曜日17：30～20：30
- 開催場所：市川市平田2-8-1
- 参加費：無料（18歳まで）、大人300円



●学習支援×こども食堂

今回ご紹介するのは、2017年4月にオープンしたばかりの常設コミュニティスペース、地域の学び舎「プラット」（以下、「プラット」）で実施している、「学習支援×こども食堂」事業です。

「プラット」を運営しているNPO法人ダイバーシティ工房は、発達障害、不登校、高校中退など、様々な生きづらさを抱える子どもたちを対象とした学習支援をメイン事業とし、市川市内で主に中学生を対象に、高校入学や卒業を目標とする学習塾の「自在塾」と、発達障害児専門の学習支援教室「スタジオplus+」を運営しています。

●本当に支援が必要な子どもたちへ

「プラット」の「学習支援×こども食堂」は、一般的な「こども食堂」のように、低料金で誰もが食事できる、という開かれたスタイルではなく、（ダイバーシティ工房が）本当に支援が必要だと判断した子どもたちに限定し、



コミュニティカフェ 誰でもくつろげる地域の居場所

無料で勉強を教え、さらに温かい食事を提供するというもの。開催日には、5～15名の子どもたちが訪れるそうです。

勉強を教えるのは、常勤スタッフをメインに、ボランティアの学生や元教員など。

食事の調理は常勤スタッフの管理下で、主にボランティアが担当。「こども食堂」ながら、月・火・木曜日の日中は今後カフェをオープン予定のため、飲食店の営業許可を取得。さらに、調理スタッフには細菌検査を義務付け、調理場はスタッフ以外立ち入り禁止など、徹底した衛生管理を行っています。

ちなみに取材日のメニューは、チキンライスのホワイトソースがけをメインに、味噌汁と副菜2品、そしてデザートに梨と、見た目も華やかでボリュームも十分。大勢で囲む食卓には笑顔が溢れていました。

●“見つける”ことが大きな目的

「学校生活に生きづらさを抱えている子どもたちを、一人でも多く見つける。それが『プラット』の大きな目的の一つです」と語る、不破牧子理事長。

そのため「プラット」には、カフェ営業、イベントの開催、空き部屋をレンタルスペースにするなど、コミュニティスペースとして

の機能を持たせ、福祉やボランティアに興味がない人でも、気軽に利用できる場所になっているそうです。たくさんの人々が訪れることで、より多くの情報が集まり、その情報を様々な角度から検証し、本当に「プラット」を必要とする子どもを見つけ出す。それが何より重要なのだと。

●将来的には地域に根付いた施設に

「プラット」の今後について尋ねると、将来的には自分たちの手を離れ、地元の人々が自主的に運営する、地域に根付いた場所になってほしいとのこと。

最後に、「私たちの趣旨にご賛同いただける、学校の関係者や公的機関で働いている方々向けの見学会も実施しております」と、不破理事長。

「プラット」では、これらの活動を継続していくために支援を受け付けています。詳細はホームページ (<http://diversitykobo.org>) でご確認ください。



様々な背景をもつ子ども達に寄り添います。ダイバーシティ工房スタッフ

ご相談ください
 福祉サービスに関する
苦情解決相談

千葉県運営適正化委員会 電話043-246-0294
 メール support@chibakenshakyo.com FAX 043-246-0298
【受付時間】 平日9時～12時、13時～17時（土日祝日・年末年始を除きます）
 ※来所面談は予約制ですので事前にご連絡ください。メール、FAX、手紙も可。住所は下記と同じ。